

【奨励賞】

団体名	川崎臨海部しごとスタイルプログラム（かわさきりんかいぶ しごとすたいるぷろぐらむ）
活動の内容（概要）	川崎臨海部に立地し日本の産業を牽引する企業と、川崎市とが連携し、川崎総合科学高等学校におけるキャリア教育の充実を図っている。①事前オリエンテーション②企業が学校に出向くブース出展③企業訪問による見学・体験ツアー④ブックレットの記入・更新⑤生徒の体験発表の5つの内容で構成した一連のプログラムを実施することで、勤労観・職業観の醸成と学習意欲の喚起につなぎ、生徒達のキャリア形成を支援している。

受賞理由

- 「しごとスタイルプログラム」は、行政のビジョンともリンクしており、学校、企業、行政が三位一体となって取り組んでいるところが素晴らしい。プログラムの内容は、企業のブース出展、企業訪問、ブックレットの記入、体験発表というオーソドックスな流れで構成されているが、生徒や企業を対象とした振り返りのワークショップを重要視しているところが素晴らしい。具体的にどのように意見交換が行われ、どのようなプログラムの実施効果や改善点を見いだせたのか興味深い。
- 工業地帯という特徴と、そこに参加する大手企業等のリソースを活用した、同地域ならではの取り組み。企業とのつながり創造を目指してヒアリングをしっかりと行ったところが効果につながっている。技術者養成を行う同高校の就職者が多いということにも合致する。臨海コネクというコミュニティ、アウトプットの場、広報活動も効果的である。
- 身近な臨海部を自分ごととしてとらえ、日々の学びが社会で生かされ、働くことにつながるということを生徒自身が実感できるプログラムであり、その結果授業へのモチベーションが上がり、学び続けやがて社会の担い手となることが期待できる。そのために、10年後を見据えた学校、企業、行政の連携・協働体制が構築され、評価・分析・改善のプロセスを整え、キャリア教育を核にすべての関係者が主体的に次世代を育成する土壌があることを高く評価します。
- 地元企業の協力と市（行政）の連携が、高校のキャリア教育にマッチングしている事例で、仕事に対する興味関心をうまく引き出している。このようなプログラムに参加することは、就職してのリアルティショック防止にもなると感じた。1学年221人中67名の体験ツアー参加であったが、今後はこの参加者が増えるのか興味があるところである。今後継続性についての取り組みが期待される。
- 川崎総合科学高等学校と川崎臨海部の複数の企業が連携し、同校の1年生向けに学校への企業ブース出展と生徒による企業見学・体験ツアーを中核として実践されるプログラムである。優れた取組であるが、類似の取組は専門学科・総合学科等を中心にすでに全国的になされているので、独自の視点が必要である。
- 川崎臨海部の特徴を活かした、産学官連携による体験型プログラムである。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

川崎市立川崎総合科学高等学校

川崎市教育委員会事務局

【行政や地域・社会、産業界等】

<行政>

川崎市臨海部国際戦略本部事業推進部

（業務支援委託業者：株式会社石塚計画デザイン事務所）

<参加臨海部立地企業>

旭化成株式会社、川崎バイオマス発電株式会社、株式会社キルト工芸、株式会社 JERA 川崎火力発電所、昭和電工株式会社、信幸建設株式会社、東亜石油株式会社、東京電力パワーグリッド株式会社、日本ゼオン株式会社、日本鋳造 株式会社、日本冶金工業株式会社、株式会社日の出製作所

活動開始の経緯



<企業のプレゼンに対し生徒が質問をしている様子>

【活動開始時期】令和2年～ 【継続年数】3年

川崎臨海部は、京浜工業地帯の中心に位置し、日本の産業を牽引する優れた技術を持つものづくり企業が数多く集積している。その川崎市で工業科を有する川崎総合科学高校から、企業との連携により生徒のキャリア教育に資する取組ができないかと臨海部国際戦略本部へ相談したことから始まる。

「川崎臨海部しごとスタイルプログラム」は、高校1年生が川崎臨海部の立地企業で働く人々の姿を見て、知って、体験できる機会をつくり、シビックプライドを育みながら将来の自分の働くイメージ像を持てるようにすることで、生徒一人ひとりのキャリア形成を支援

するとともに、参加臨海部企業には、企業活動のPRや、人材育成につながる機会としてもらうことを目的とし、令和2年度から市と学校と企業で検討を重ねながら立案を行い、翌令和3年度から実施しているものである。

「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

本プログラムは、川崎臨海部の立地企業と川崎市、川崎市教育委員会、川崎総合科学高等学校とが連携して実施している。このプログラムの企画にあたり、まずは生徒、教員、企業に対し、市がそれぞれヒアリングすることから始めた。

- ・高校1～3年生の生徒には、臨海部のイメージや就職に対する考え・悩み、また「企業で働く先輩方の生の声を聴きたい」等の本プログラムに対する期待等について聞き取りし、生徒の実態に応じた取組になるよう配慮している。
- ・校長及び各学科長教員には、生徒の就職に係る現状や課題、本プログラムへの期待等について聞き取り、「企業担当者とのつながりを持ちたい」という学校としてのニーズに即した要素を加えている。
- ・臨海部立地企業には、10社に個別訪問し、高卒採用の現状や課題を聞き取り、「企業を知ってもらいたい、学校とのつながりを持ちたい」などの企業側のニーズを把握している。

各ヒアリングを実施後、臨海コネクト（学校、企業、行政、教育委員会が一堂に集まるワークショップ型の意見交換会）を開催し、共通理解を図りながら、これら関係者のニーズをマッチングさせ、それぞれがメリットのある効果的なプログラムになるよう検討を進め、次世代を担う生徒達のキャリア形成支援につながるよう取り組んでいる。

「継続性」についての具体的な取組，工夫している点など

本プログラムは、次世代を担う生徒のキャリア形成を支援することを目的とし、学校、企業、行政（臨海部国際戦略本部、教育委員会）が連携し、三位一体となったプログラムとして10年後の確立を見据えて取り組んでいる。最初の3年間は、総合科学高校をモデル校として設定し、実施と検証を繰り返しながらプログラムの改善を図る。そして、4年目以降に、内容拡充や参加企業の拡大など、事業を柔軟に展開できるようあらゆる可能性を想定しながら、10年後に確立したプログラムとして根付かせることを目標に置き、計画的に取り組んでいく。それぞれの関係者のニーズを把握し、メリットが生まれるような仕組みを作りだすことで、将来にわたり皆が主体性を持って取り組んでいけるよう工夫をしている。

また、臨海コネクト（学校、企業、行政、教育委員会が一堂に集まるワークショップ型の意見交換会）を設置している。年間で組まれた5つのプログラムをそれぞれ実施した後に、生徒、教員、企業にアンケート調査等を行い、意見を集約し、結果を評価・分析している。そして、全プログラムの終了後、それらの意見を、「臨海コネクト」の場で共有するとともに、次年度の実施に向け改善策を検討し、皆で共通認識を持って合意形成することでプログラムをブラッシュアップさせている。このことにより、参加するすべての関係者が主体的にプログラムに取り組む土壌が形成されている。

「実践性」についての具体的な取組，工夫している点など

川崎総合科学高等学校は、情報工学科・総合電機科・電子機械科・建設工学科・デザイン科・科学科の6つ専門学科で構成されており、生徒の半数近くは卒業後に就職を希望している。また、臨海部立地企業は石油産業・鉄鋼業・エネルギー関連などの企業が集積し、本校と非常に親和性が高く、生徒のニーズにも応え、生徒の将来の就職に向けたイメージを広げることができる。

本取組は、高校1年生を対象としているため、生徒からは「働いている実際の現場を見て情報を直接知ることができたことで、これからの進路活動に生きてくると思っている。」「体験することが大切だと気付くことができた。その場の雰囲気を感じ、自分で見たこと、やったことが、日々の学びにもつながっていると感じる。」といった感想を得ることができた。各専門学科での日々の学びが将来の仕事につながっているという「学びのレリバンス意識」を醸成し、学習意欲の喚起につながる取組である。

「発展性」についての具体的な取組，工夫している点など



＜企業、行政、教育委員会、学校間による企画会議＞

行政が中心となって報道機関へのリリースや、企業協力のもと昨年度実施した様子を収録した動画をYouTubeで公開するなど、川崎総合科学高校の魅力の一つとして広く地域や社会に情報発信している。これにより、本校への進学希望者を増やすことにつながっている。また、より多くの生徒が企業訪問をするためには、このプロジェクトに参加する立地企業を増やしていく必要がある。そこで、行政が企業に出向き、作成した動画や昨年度の実施報告書を用いて本プログラムの主旨（次世代を担う子どもたちを、地域全体で育てていくこと）や目的等を丁寧に

説明するとともに、実施しているプログラムを実際に見学に来ていただいたり、臨海部コネクトに参加してもらったりすることで、参加企業の拡大につなげている。昨年度、約 60 人の企業訪問参加数から、今年度は 90 人へと増加させることができている。さらには、このプログラムに参加した高校 2 年生を対象に「しごとスタイルインターン」を実施することにより、更なる発展を図っている。生徒の反応や学びへの意識に変化がみられ、このプログラムの成果を教員や企業が共有することで、より前向きにプログラムに取り組む機運が高まっている。学校と企業とのつながりが深まり、良好な関係性の構築が、今後の展開につながっている。

学校現場の評価・感想・コメント

専門学科を有する高等学校として、本校での学びが社会とつながっていなければ真の学びにならないという理念から数年前に臨海部の皆様に相談をさせていただいた。そして昨年度から仕事プログラムを実施し、初めに当該学年の生徒全員によるブース型の説明、その後は希望者による企業見学を通して人々の生活を守り、豊かにするために日々発展し続ける姿からプロ意識、やり甲斐など、本校の学びの延長にある世界で充実感を得ながら活躍する社会人の姿を目の当たりにすることが出来た。そして体験内容を学年全体で共有する機会を設け、生徒に一人ひとりの生き方あり方に直接向き合う機会を持つことが出来た。本校のように専門学科で学ぶ生徒だからこそ、各分野で生きていくことを意識しながら現在の学びの大切さや妥協せずに学び続ける覚悟を持てる機会がこのプログラムであると感じている。このような機会を提供していただいた臨海部の皆様をはじめ、多くの企業様に心より感謝する次第である。

関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

実際に参加した企業からは「高校生やその保護者などに会社を知ってもらう良い機会となっている」という参加するメリットの声や、次回に向けて「お金のためだけではなく、働く意義ということを感じてもらうことは大切なことであり、働くということの社会性を伝えていきたい」という教育的な視点からの意見もいただいている。このプログラムを通し企業 PR や雇用面だけでなく“地域全体で子供たちを育てていく”といった企業側の意識の変化も感じ取ることができた。実施期間中には、神奈川県と横浜市の担当者が本プログラムを見学に来るなど、近隣自治体からも関心が寄せられ、さらに、実施後には、読売新聞の「教育ルネサンス」へ掲載され、担当者から「素晴らしい取り組みだ」と評価いただいた。